

令和8年度

# 全国高等学校定時制通信制体育大会 第57回剣道大会 開催要項



期 日 令和8年8月3日（月）

- 主 催 (公財) 全国高等学校定時制通信制教育振興会 (公財) 全国高等学校体育連盟  
(公財) 全日本剣道連盟 東京都教育委員会
- 後 援 文部科学省・スポーツ庁 厚生労働省 (公財) 日本スポーツ協会  
全国定時制通信制高等学校長会 全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会  
NHK 日刊スポーツホールディングス (公財) 日本武道館  
(公財) 東京都スポーツ協会 (公財) 石澤奨学会
- 主 管 (公財) 全国高等学校体育連盟定時制通信制部剣道専門部 東京都高等学校体育連盟  
(一財) 東京都剣道連盟

## 1 期日

令和8年8月3日（月） 開場：午前8時00分 / 開会：午前9時00分

## 2 会場

日本武道館 東京都千代田区北の丸公園2-3  
大会当日・本部直通電話 03-3216-5103

## 3 競技種目

- (1) 男子（団体試合・個人試合） (2) 女子（団体試合・個人試合）

## 4 競技方法

- (1) 全日本剣道連盟の「剣道試合・審判規則」並びに「同・細則」、及び全国高等学校体育連盟剣道専門部「申し合わせ事項」による。
- (2) 団体試合は、リーグ・トーナメント戦を行う。  
※ 参加チーム数によっては、大会当日再抽選することも有り得る。
- (3) 個人試合は、男女共にトーナメント戦を行う。
- (4) 試合時間は、次の通りとする。

### 【 団体試合 】

団体試合は、男女共に4分、三本勝負とし、時間内に勝負の決しない場合は引き分けとする。尚、リーグにおけるチームの引き分けの際はその都度勝負を決定せずに、そのリーグ終了後 下記の順で順位を決める。

- ① チームの勝点による。（勝：1点、分：0.5点、負：0点）
- ② 勝者数
- ③ 取得本数

以上の結果より勝負が決定しない場合は、代表者戦（補欠は含まない）にて決する。試合時間は4分間一本勝負、勝負が決するまで行う。延長戦の試合時間は3分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦3回ごとに「休憩」しながら行う。トーナメント戦の場合もこれに準ずる。

### 【 個人試合 】

個人試合は、男女共にトーナメント戦にて行う。試合時間4分間、三本勝負とする。試合時間内に勝負が決しない場合は、先に一本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は3分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦3回ごとに「休憩」しながら行う。

- (5) 団体試合において欠員が出る際のチーム編成は後ろ詰めとし、次の通りとする。

[男子] 4人チームの場合 … 次鋒・中堅・副将・大将

3人チームの場合 … 中堅・副将・大将

[女子] 2人チームの場合 … 中堅・大将

欠員が出るチームと対戦する場合は、事前に申し込んであるオーダーの中で、不戦勝ちの選手を試合前に決定できる。ただし、人数の少ないチームのオーダーに合わせて試合を行う。大会当日（監督会議で欠員を確認した時点まで）の欠員についても、これに準ずる。

(6) 竹刀は、次の通りとする。

対 象	長 さ	重 さ	太 さ		先 革 長 さ
			先端部最小直径 ※対辺直径 ※先端から 1.5cm	ちくとう最小直径 ※対角最小直径 ※先端から 8cm	
男 子	117cm 以内	480g 以上	26mm 以上	21mm 以上	5cm 以上
女 子		420g 以上	25mm 以上	20mm 以上	

- ① ビニールテープ等を用いて、補強した竹刀の使用は禁止する。
- ② 鏢は、鏢止めを用い、必ず固定する。
- ③ 先ゴムには芯がなく、つぶれにくいものを使用する。

(7) 竹刀の検量については、大会前日は練習会場にて、大会当日は検量会場にて行い、合格竹刀には検印を押す。

(8) サポーター等の使用については、医療上必要と認める場合に限り、見苦しくなく、かつ相手に危害を加えない範囲において、これを認める。

(9) 名札（ゼッケン）は、前垂に黒地または紺地に白字で、各都道府県名（横書）及び姓（縦書）の記された布を使用する。また都道府県名の入った目隠し（ゼッケンベルト）の使用も可とする。大会当日、名札のない者は出場停止とする。

(10) 紅白の目印（長さ70cm、幅5cm）は各都道府県で用意すること。

(11) 面紐の長さは結び目から40cm以内とすること。その他、欠備のないようにすること。

(12) **試合時には面マスクまたはマウスシールドを着用すること。**

## 5 引率・監督

(1) 引率責任者（全国高体連の規定に準ずる）によって引率されること。引率責任者と監督が同じでも構わない。また必要に応じてマネージャーを付けてもよい。

(2) 監督の服装は、**白ワイシャツ（半袖）、ズボン（白・灰色、女性監督は白・灰色スカートも可）、白・紺・黒色の靴下**を着用、または**剣道着・袴**を着用し、**監督章（IDカード）**をつけること。

(3) 引率責任者・監督の**マスクの着用は個人の判断**に任せる。

## 6 参加資格

(1) 全国高等学校定時制通信制体育大会開催基準要項13の（1）から（11）の規定を満たしていること。

(2) 参加選手はあらかじめ健康診断を受け、学校長の承認を必要とする。

(3) 以下の生徒の参加については認めない。

- ① 聴講生。
- ② 当該校において、卒業を目的としない生徒。
- ③ 意図的な留年を繰り返し、競技種目を越えて連続で出場する生徒。
- ④ 通信制課程に所属し、高校生としての教育活動が著しく損なわれている者。
- ⑤ 別途定める「全国高等学校定時制通信制体育大会における個人情報及び肖像権に関する取り扱い」の承諾を得られない者。
- ⑥ 参加費の未払いな者。

⑦ その他、各競技専門部会が定める「定通大会」参加資格及び規定に反する者。及び不良性行や大会運営上支障があると判断され、参加が不適切であると認められた者。

(4) 三段以下とする。

## 7 参加制限

(1) 出場選手

選手は都道府県単位で出場すること。

(2) 団体試合（男子・女子）

団体試合男子は2チームまでとし、1チーム編成は、監督1名、選手5名、補欠を2名までとする。やむを得ない場合は、3名以上での参加を認める。

団体試合女子は2チームまでとし、1チーム編成は、監督1名、選手3名、補欠1名までとする。やむを得ない場合は、2名以上での参加を認める。

(3) 個人試合（男子・女子）

個人試合男女共に、各都道府県4名までとする（代表選手に順位をつけて登録する）。男子、女子出場選手数に応じた監督（1名～4名）を付けること。ただし、出場選手数を超える監督数は不可とする。団体試合出場と個人試合出場は重複してもよい。

(4) 出場選手の変更

個人試合については、組み合わせ抽選会以降の選手変更は認めない。

## 8 審判員

東京都高等学校体育連盟剣道専門部審判員並びに関東地区高等学校体育連盟剣道専門部推薦審判員を原則とする。審判員の服装は白Yシャツ（半袖）、えんじ色ネクタイ（無地）、グレーズボン（無地）、紺靴下を着用する。マスクは着用しない。ただし、控え席でのマスク着用は個人の判断に任せる。また、審判旗は各自持参する。

## 9 申込方法

(1) 手順

① 大会事務局HPより所定の書式をダウンロードし、所要事項を入力すること。

② 大会事務局にメール（添付ファイル）で送信すること。なお、メールの件名は「都道府県名・大会申込」とすること。

③ ②をプリントアウトしたものに各都道府県高体連の公印を押した上、申込先に郵送すること。

(2) 申込締切日

令和8年6月23日（火）

(3) 申込先

〒157-0061

東京都世田谷区北烏山9-22-1 東京都立世田谷泉高等学校 内

全国高等学校定時制通信制剣道大会 事務局長 牛腸 淳 宛

Email [tkendou0953@yahoo.co.jp](mailto:tkendou0953@yahoo.co.jp)

URL <http://www.zenkoku-t2-kendo.com/>



## 10 参加費

- (1) 個人試合 1人 金 4,500円也  
団体試合 1チーム 金 45,000円也
- (2) 振込締切日  
**令和8年6月23日(火)**
- (3) 振込先  
ゆうちょ銀行 019店 当座 00110-3-0091847  
全国高等学校体育連盟定時制通信制剣道大会  
(ゼンコクコウトウガツコウタイイクレンメイテイジセイツウシンセイケンドウタイカイ)
- (4) 申込後の返金はしない。

## 11 表彰

- (1) 団体試合 ※3位決定戦は行わない。  
優勝 優勝杯(文部科学大臣杯(男子)、厚生労働大臣杯(女子)、高体連)  
優勝盾(日本武道館)  
優勝旗(高体連)、優勝盾(全剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する  
準優勝・第3位 盾(都剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する。
- (2) 個人試合 ※3位決定戦は行わない。  
優勝 優勝盾(日本武道館)、メダル(全剣連、高体連)、賞状を授与する。  
準優勝・第3位 盾(都剣連)、メダル(高体連)、賞状を授与する。
- (3) 石澤奨学会理事長賞  
男子・女子1名 盾(石澤奨学会)、賞状を授与する。
- (4) 参加賞  
全参加者に参加賞を授与する。

## 12 宿泊

- (1) 宿泊料金 選手・監督共に1名分(料金はいずれも税込)  
1泊2食(夕食・朝食) 15,400円  
1泊夕食 13,750円  
1泊朝食 12,100円  
※ツイン・トリブルの場合は1名1泊あたり上記の金額より-2,200円  
※申し込みの際、希望通りツイン・トリブルになるわけではないため、必ずシングル料金で  
予算を計上してください。  
※昨年度より、昼食のお弁当につきましては、大会事務局、ホテル側では取扱いいたしません。  
各引率者のもと昼食のご準備をお願いいたします。
- (2) 申込方法
  - ① **大会事務局HPより書式をダウンロードし**、入力する。
  - ② **大会事務局にメール(添付ファイル)で送信**する。
- (3) 申込締切日  
**令和8年6月23日(火)**

### 1.3 その他

#### (1) 監督会議

日時 令和8年8月2日(日) 午後2時30分 ~ 午後3時30分

場所 東京都立一橋高等学校 柏葉会館

必ず各都道府県の監督または引率責任者が出席すること。

#### (2) 審判会議

日時 令和8年8月3日(月) 午前8時30分 ~ 午前8時50分

場所 日本武道館 小道場

#### (3) 宿舎

大会事務局が指定する都内ビジネスホテル

#### (4) 検量・練習

日時 令和8年8月2日(日) 午前10時00分 ~ 午後4時00分

場所 東京都立一橋高等学校 体育館

日時 令和8年8月3日(月) 午前8時10分 ~ 午前8時40分

場所 日本武道館 地下2階 東側男子ロッカー室

#### (5) 会場案内

東京都立一橋高等学校

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-12-13

JR総武線 浅草橋駅西口 徒歩5分

JR総武線快速 馬喰町駅 徒歩3分

地下鉄 都営新宿線 馬喰横山駅 徒歩5分

地下鉄 都営浅草線 東日本橋駅 徒歩7分

#### (6) プログラム編成・組合せ(責任抽選とする)は、 主管団体にて行う。

#### (7) 選手の試合による直接の事故については、応急 処置の費用のみ主催者で負担する。



### 1.4 大会事務局

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山9-22-1

東京都立世田谷泉高等学校 内

全国高等学校定時制通信制剣道大会

事務局長 牛腸 淳

Tel 03-3300-6131

Fax 03-3300-3687

Email [tkendou0953@yahoo.co.jp](mailto:tkendou0953@yahoo.co.jp)

URL <http://www.zenkoku-t2-kendo.com/>



※ 会場の変更等がある場合は、事務局より連絡する。

※ 7月31日(金)~8月16日(日)は、以下の携帯電話番号へ。

携帯電話番号 090-4841-5940

## 令和8年度

### 公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 申し合わせ事項

下記の事項は、公式試合における全国高体連剣道専門部としての統一的な事項である。  
特に全国大会（全国高校総体・全国選抜大会）においては、これを厳守することとする。

#### 1 大会参加資格について

- (1) (公財) 全国高等学校体育連盟の定める「全国高校総体開催基準要項の大会参加資格」による。
- (2) (公財) 全国高体連剣道専門部の定める「外国人留学生の出場枠」(下記)による。
  - (イ) 学校教育法第1条に規定する高等学校に卒業を目的として入学している生徒であること。
  - (ロ) 在籍校が、各都道府県高体連剣道専門部に加盟していること。
  - (ハ) 年齢は平成19年4月2日以降に生まれた者とする。ただし出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回に限る。
- (ニ) 短期留学は除く。
- (ホ) 上記(イ)から(ニ)の条件を総て満たしている者に限り、以下の出場枠で参加を認める。
  - 団体戦・・・補欠を含めた7名中の2名以内の出場枠とする。
  - 個人戦・・・参加制限をしない。

#### 2 選手心得

- (1) 選手は気品のある態度で全力をあげて試合をする。
- (2) 選手の服装・竹刀・剣道具は、その安全性と公平性が保たれていること。規格外のものを使用したり、華やかな装飾や細工等を施したりしないようにする。
- (3) 選手の服装は、紺(黒)または白の剣道着・袴とする。なお、刺繍等により華美にならないこと。
- (4) 試合者の目印に校名などを大きく目立つように入れてはいけない。目印を着ける時は折り返した二枚の長さが揃うように着ける。また、頭髪が長い場合には、頭髪を束ねる・結ぶなどして上げてまとめて目印が常時確認できるようにし、判定に支障が出ないようにする。
- (5) チーム内に同姓がいる場合は、名札に名前の一字を入れるなどして、判別できるようにすること。
- (6) 校名の略称表示については、原則として「名札」、「電光掲示」、「プログラムの略称表示」を一致させること。

#### 3 引率責任者、監督の資格について

- (1) 引率責任者は、校長の認める当該校の教職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。
- (2) 監督は、校長が認める指導者とし、それが外部指導者(部活動指導員含む)の場合は傷害・賠償責任保険(スポーツ安全保険等)に必ず加入することを条件とする。

付記：但し、各都道府県における規程があり、引率・監督者がこの基準より限定された範囲内であればその規程に従うことを原則とする。

#### 4 監督心得

- (1) 監督の服装は、以下の通りとする。
  - (イ) 全国高校総体では、白シャツ、ズボン（白・灰色）または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
  - (ロ) 全国選抜大会では、スーツ（ジャケット）、ネクタイ、または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
- (2) 試合場に入ることができるのは、監督・選手・補欠のみとし、他の者の入場は厳禁する。

#### 5 規則の運用及び大会運営について

- (1) 試合はすべて一刀（一本の竹刀）にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。
- (2) 全国大会（総体・選抜）での竹刀検量は、（公財）全国高体連剣道専門部の定める「竹刀検量基準」に則って行う。また、申請する竹刀の本数は、選手1人当たり3本以内とする。
- (3) 不正用具を使用した時の罰則は試合規則17条・19条の通りであるが、個人戦と団体戦を含めて行う大会においては、両方に適用する。
  - (イ) 団体戦・個人戦における不正用具使用者は、以後の試合に出場できない。団体トーナメント戦における補欠の出場は別に定めのない限り認める。
  - (ロ) リーグ戦にあつては、不正用具使用者の当該試合を負けとし（相手に2本与える）、以後、補欠の出場も認めない。（その際、過去の試合まではさかのぼらないものとする。）
- (4) 試合時間は、全国総体（団体戦・個人戦）、全国選抜大会ともに4分とする。また、団体戦の代表者戦においても4分とする。
  - (イ) 全国大会（総体・選抜）の団体戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、引き分けとする。
  - (ロ) 全国大会（総体・選抜）の団体戦における代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は3分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦3回ごとに「休憩」しながら行う。
  - (ハ) 全国総体の個人戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は3分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦3回ごとに「休憩」しながら行う。

**付記：**(1) 勝敗の決するまで延長戦を継続する場合、延長戦3回ごとに「休憩」しながら行う。

- ・「休憩」…選手を選手席に戻し、面・小手を外させて給水などさせる。時間は選手が面・小手を外してから3分とし、その後、面・小手を着けさせて試合を再開する。審判員も一度審判員席に戻り、待機する。

(2) 各都道府県の大会における「試合時間」と「延長戦の試合時間」については、原則として全国大会を基準とする。ただし、運営する大会により別に定めることはできるものとする。

- (5) 全国大会団体戦において、4人及び3人チームの出場を認める。運用については、以下のとおりとする。
  - (イ) 4人チームは「次鋒・中堅・副将・大将」、3人チームは「中堅、副将、大将」に選手を登録する。
  - (ロ) 大会当日や大会中にやむを得ない理由で選手が5人及び4人揃わない場合は、試合前に本部（事務局・実行委員会等）へ申し出て、4人及び3人チームのオーダーに変更する。

- (ハ) 5人及び4人のチームが4人及び3人のチームと対戦する場合は、登録選手の中で不戦勝ちの選手を試合前に決定できる。ただし、総体においては、人数の多い方のチームは、オーダー順を変更してはならない。
- (ニ) 不戦勝ちの選手は不戦勝ちの宣告を受ける。
- (6) 全国大会団体戦の選手変更は以下の方法、条件内で認める。
- (イ) 監督会議前までに所定の届けを大会事務局へ提出する。
- (ロ) 変更する選手の人数は原則2名以内とする。
- (ハ) 全国総体で、選手変更する場合、先鋒から大将までのオーダーは変えられない。
- (ニ) 全国総体では、参加申込時の選手5名補欠2名に対し、新たな選手を入れる場合は補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。
- (7) 団体戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。(大会が2日以上の場合は全期間にわたって適用する。)但し、全国選抜大会においてはこの限りではない。
- (8) 予選リーグにおける引き分けの際は、その都度勝負を決定せずそのリーグ終了直後、下記の順で勝敗を決め、また代表者戦を行う。
- (イ) チームの勝ち点による。(勝ち1点、分0.5点)
- (ロ) 勝者数による
- (ハ) 総本数による
- (ニ) 上記(イ)から(ハ)までで3チームの順位が決定しない場合は、代表者戦によるリーグ順位決定戦を以下の要領で行い当該リーグの1位を決定する。
- ① 代表者戦の対戦順は予選リーグ戦時の対戦順とする。ただし、1位チームが決定した後の試合は行わないものとする。
- ② 代表選手は選手の安全面等に配慮し、代表者戦ごと変更することを可とする。
- ③ 礼法については、代表者戦1巡目のみ当該の試合に出場した5人を整列させて行い、2巡目に入った場合は代表選手のみ礼とする。
- ④ 審判は予選リーグ戦時における当該の審判員が行う。
- (9) 代表者戦の選手は、当該の試合に出場した先鋒から大将までの5人の選手から選出する。但し、予選リーグにおいては補欠と交代した選手の再出場は認めない。代表者戦は一本勝負とする。
- (10) 鏢競り合い(意図的な時間空費・防御姿勢による接近する行為・解消方法等も含む)については、全日本剣道連盟「剣道試合・審判・運営要領の手引き」9～11ページ、31ページを遵守する。
- (イ) 手元が上った拳競り合いにならないようにし、手元を下げて相互に鏢元と鏢元を合わせて竹刀を交差させる。(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とする。)
- (ロ) 鏢元で竹刀の表鏢を交差させる。(竹刀は右傾前方に傾ける。)
- (ハ) 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鏢側での交差に直さなければならない。(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏢競り合いをする者は反則の対象となる。)
- (ニ) 鏢競り合いは、相互に鏢元で圧力をかけ合っている状態とする。(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となる。)
- (11) 合議をかけた後に反則とする場合、主審はその場に残り、当該選手に対して具体的に「公正を害する行為」・「時間空費」・「不当な鏢競り合い」等の内容を身振りや手振りを交えて説明する。その後、主審は定位置に戻り、反則を宣告する。
- (12) 審判員は、全国大会で自分の所属する都道府県の学校及び選手が対戦する試合の審判は行わない。

また、出身高校や親族等の関係する試合の審判は行わない。

(13) 全国大会においてオーダーミスがあった場合の措置については、以下のとおりとする。

(イ) 試合開始宣告前に発覚した場合は、正規のオーダーに改めさせ、特に罰則は与えない。

(試合開始宣告とは、その選手が行う試合の「始め」の宣告とする。)

(ロ) 試合中あるいは試合後に発覚した場合は次のように措置する。

(その試合場の審判主任へ異議を申し出る。)

[例えば、先鋒と次鋒のオーダーミス]

\*先鋒、次鋒とも相手に2本を与えて負けとする。

\*先鋒、次鋒とも既得本数は認めない。

\*先鋒、次鋒とも当該試合には出られない。

(試合後の発覚とは、チームの大將戦が終了し、団体の礼が終わるまでに発覚した場合をいう。

試合の勝敗は、団体の礼をもって「成立」とし、それ以後の異議申し立てはできない。)

(ハ) 上記(ロ)は、

①トーナメント戦においては、当該試合のみ適用する。

②総体予選リーグにおいては、当該試合及び以後のリーグ戦の試合にも適用する。

(ニ) オーダーミスをした選手(チーム)の以後の試合は、次のように措置する。

①トーナメント戦においては、正規のオーダーに改めさせ出場を認める。

選抜大会(フリーオーダー制)においても出場を認める。

②総体予選リーグにおいては、出場を認めない。また、補欠の補充も認めない。

(14) 応援は拍手のみとする。指示や声援は厳禁とする。

(15) 会場に各種旗(校旗、部旗、それに類するもの)の掲揚はしない。

## 6 事故の処理

選手が負傷した場合は、医師及び監督の意見を聞いた上、審判主任と審判員の4名が審判長の了解を得て試合継続の可否について決定する。試合の継続が決定した後、原則として5分以内に試合を再開する。

## 7 試合放棄に対する措置について

全国大会において試合放棄が行われた場合、原則として以下の措置をとる。

試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方的に放棄した場合をいう。

(1) 試合放棄の事実確認及び事情聴取

審判長または審判主任は、監督及び選手に対して試合放棄の事実を直接確認し、その事情聴取にあたる。

(2) 競技上の取り扱い

剣道試合・審判規則第31条(棄権)、細則28条に則り以下の通り処理する。

(イ) 試合を放棄した者は負けとし、その後試合に出場することができない。

(ロ) 個人戦においては、相手に2本を与えて負けとする。既得本数は認めない。

(ハ) 団体戦においては、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数は認めない。

(リーグ戦においてはそのリーグすべての試合を、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、

既得本数、既得権は認めない。)

**付記：**団体戦においては、チームとして試合放棄した場合とチーム内の1選手が試合放棄した場合があり得るが、ともに上記（ハ）のとおり処置する。

(3) 試合放棄した個人または団体（監督も含め）に対する事後の指導措置

（公財）全国高体連剣道専門部長は、副部長・委員長と協議し当該者に対し指導を講ずる。その結果を全国専門委員会に報告する。

**付記：**各都道府県の大会における試合放棄は、各都道府県高体連及び剣道専門部に一任する。その結果を（公財）全国高体連剣道専門部長に報告する。

（令和8年5月3日 一部改定）